

公開・非公開の別

■公開 □部分公開

□非公開

令和6年度 第1回浜松市医療的ケア児等支援協議会

会 議 録

1 開催日時 令和6年7月31日(水) 午後2時00分から午後3時15分

2 開催場所 浜松市口腔保健医療センター 講座室

3 出席状況

委員氏名	所属	備考
福田 冬季子	浜松医科大学	
宮谷 恵	聖隷クリストファー大学	ZOOM参加
遠藤 雄策	浜松市発達医療総合福祉センター はままつ友愛のさと	
藤森 豊	天竜病院	
尾田 優美子	浜松市訪問看護ステーション連絡協議会	
堀川 朋子	県立西部特別支援学校	
沖村 宏美	聖隷おおぞら療育センター	
里 あゆ子	浜松地区肢体不自由児親の会	
清水 恵美	在宅医療ケアのある子を持つ親の会	ZOOM参加
藤川 晴海	浜松市中障がい者相談支援センター	
古橋 清史	相談支援事業所くすのき	
玉木 祐次郎	浜松市障がい者基幹相談支援センター	
南瀬 悦司	学校教育部 教育支援課	
小笠原 雅美	健康福祉部 健康増進課	
大橋 泰仁	こども家庭部 幼保運営課	
仲谷 美樹	こども家庭部 子育て支援課	
高井 健太郎	健康福祉部 健康医療課	
事務局	所属	備考
榊原 克人	健康福祉部 障害保健福祉課	
柴田 多美子	健康福祉部 障害保健福祉課	
岡田 佳久	健康福祉部 障害保健福祉課	
中谷 麻由実	健康福祉部 障害保健福祉課	
大木 茂	浜松市医療的ケア児等相談支援センター	
高 真喜	浜松市医療的ケア児等相談支援センター	
阿部 祥美	浜松市医療的ケア児等相談支援センター	

4 傍 聴 者 0名

5 議 事 内 容

- 1 医療的ケア児等相談支援センター活動報告
- 2 医療的ケア児等災害ワーキング中間報告
- 3 医療的ケア児等情報提供同意者数について
- 4 その他

6 会議録作成者 浜松市医療的ケア児等相談支援センター

7 記録の方法 発言者の要点記録
録音の有無 無

8 会 議 記 録

1 医療的ケア児等相談支援センター活動報告

資料に基づき事務局から説明

【委員からの意見】

(遠藤委員)

0～2歳の相談実人数23人と実際の登録数が違う理由は分かるか。

(事務局)

家庭訪問時や相談対応時に必ず名簿登録は確認させていただいている。市外の方の相談も含まれるため。マイナス2であると思われる。

(藤森委員)

本人・家族の相談内容の中で「ヤングケアラー」に該当する相談はあったか。

(事務局)

実際にヤングケアラーとしての相談はないが、家族状況のお話を伺った際にごきょうだい等がケアを実施している家庭があるのは実情としてある。

(事務局)

これまでは報告が主体だったがこれだけの方が集まっているので、今後は「うちの課はここまで考えている」という言葉をいただき情報の共有活発化となると助かる。

(尾田委員)

相談の幅がすごく広いと思うのですが、当面のうちに何をやるかなどのスケジュールは立てているか。

(事務局)

運営委員会も予定しており、今作成中である。出来上がったら、共有したいと考えている。

2 医療的ケア児等災害ワーキング中間報告

資料に基づき事務局から説明

【委員からの意見】

(藤森委員)

支援パッケージについてまずはどの項目を優先して取り組まなくてはならないのか。

(事務局)

まずは全数把握。全国的にも全数把握に取り組んでいるところはまだない。次に大事なのは避難所。医ケア対応は電源がないと難しい。体育館だと体温管理が難しいため、緊急避難場所またはユニットができないと。ハザードマップで問題なく、昭和 56 年以前でない建物の避難場所をどこにするのか、を考えていかななくてはならない。

3 医療的ケア児等情報提供同意者数について

資料に基づき事務局から説明

【委員からの意見】

(福田委員)

自分からこういった情報提供同意があると知れて、自分から申し込める対応ができるとよいのでは。

(事務局)

現在はホームページに載せていないため、今後検討していく。

4 その他

令和 6 年度医療的ケア児等支援者養成研修について

PART1 PART2 に分けて実際の支援を受けた保護者や園からの講演をもとに今できることは何かグループワークする研修、実際のケアの用具に触れてみる研修を企画中。

医療的ケア児等支援協議会の体制について

(玉木委員)

当事者の方がみてわかる体制図を作成していけると良いのでは。

当事者の方にどうフィードバックできるかが明記できているとより良いと考える。

5 自由意見交換

(清水委員)

避難所 全国で豪雨も多い、地震の避難所と豪雨の避難所は分かれているか。

(事務局)

風水害の場合は概ね中学校区に 1 つ、地震などの大規模災害はほぼ全ての小中学校になる。

(古橋委員)

移動手段がないとの声が上がってる、放デイや学校も含めて。移動手段がなくて出られないとの声がよく聞かれている。

(事務局)

平成 28 年の実態調査の結果でも声が上がっていた。移動についての困難感はずっと変わってないのが事実。

(尾田委員)

お風呂の事、毎日お風呂に入れてあげたい母の気持ち。30 kgのお子さんを一人で入れている現状はおかしい。大人の施設を利用した入れる体制を作りたい。新陳代謝の激しい年代も入れるようになる体制づくり。

(事務局)

通学通園に限って利用できる移動支援のサービスはできたが、利用実績は少ない。また医療ケアに対応できる居宅介護事業所が少ない。

(遠藤委員)

県の事業で放課後デイサービスの午前中の空き時間に移動を担える体制整備ができると良いなと考えている。

(事務局)

西部特支、浜北特支は移動支援だけでなく、朝の学校への申し送りが母からの引継ぎでないといけないルールがあるとも聞いている。

(里委員)

夢のような話。入浴も含めて家に入るのを嫌がる方も中にはいる。入浴に限らず、人に家に入ってもらうのはハードルがある方も。外で入浴希望の方も、家での入浴希望の方もいる。そのために入所を選ばれる方もいる。サービスが充実すると、中等部の後に生活介護を利用希望されている声もあがっている。

(沖村委員)

入浴：学校帰りにお風呂が利用できないか相談あり。実際は難しいがお風呂は空いている。そこに人が入るのが難しい。その体制整備ができればお風呂はある。放デイの学校へのお迎えは物品が一つないだけで帰らされる対応があり、もう少し柔軟な対応をお願いしたい。

(事務局)

今の時点では移動支援等の新規ワーキンググループ作成について明言できないので、今後お伝えできると良いと考えている。

(藤森委員)

医ケア・重心対応の医師の確保はどう考えているのか。

(福田委員)

浜松医大の寄付講座で、医療的ケア講習会を実施して興味を持てる医師を育てる活動を始めている。

(藤森委員)

岐阜大学にも寄付講座が開設されていた。1年生全員に障がい者施設の1日実習体験をしていた。4年生での現場実習。浜松市、静岡県と力を合わせて障害児医療に興味を持てる職員を発掘してほしい。

(遠藤委員)

友愛のさと診療所も2週間実習にきてくれている。実習受け入れは実施している。